

2019年度同志社大学大学院司法研究科
後期日程入学試験問題解説
小論文

問（１）（配点：３０点）

- ・本問は、【文章１】で述べられている「常識的道德の悲劇」という概念を、同文章内の「コモنزの悲劇」という概念との対比を通じて、その内容を説明させる問題であり、文章の読解能力と、読み取った内容を要約して表現する能力を試している。

- ・採点に際しては、以下の点を中心に評価した。
 - ・「常識的道德の悲劇」の意味が明らかにされているか
 - ・「コモنزの悲劇」との違いが適切に説明されているか
 - ・文章表現能力

（解答例）

「常識的道德の悲劇」とは、あらたな牧草地をめぐる集団間においては、たとえ各個人が利己的でなく道徳的に行動したとしても、集団ごとの常識的道德が異なるために、流血を伴う激しい衝突という悲劇が引き起こされることをいう。これに対し、「共有地の悲劇」は、集団の内部において各個人が利己的に行動することによって、牧草地が荒廃するという悲劇が起こることであり、悲劇の原因が各個人の利己的な行動である点で、「常識的道德の悲劇」とは異なる。（211字）

問（２）（配点：７０点）

- ・本問は、【文章２】において説明されているホームレスにフリーマネーを給付するという政策について、【文章１】における「北の部族」と「南の部族」にとって、どのような点が受け入れ可能で、どのような点が受け入れ可能でないのかを分析し、論理的に表現できる能力を問うものである。

- ・採点に際しては、文章表現能力、叙述の論理的展開力を中心に評価した。なお、知識自体を評価することはしていない。以下に示すのは、模範解答ではないが、一つのサンプルとしての解答例である。

（解答例）

ホームレスにフリーマネーを給付するという政策は、福祉としての性格を持つ。この点は、個人主義的な考えを持つ北の部族にとっては、受け入れ難いようにも思われる。しかし、北の部族が個人の自由を重視するという考えを持つとするならば、貧しい人々

に選択の自由をもたらすフリーマネーは、個人の自由を保障するものとして、北の部族の考えと相容れないものではない。そして、その使途等の管理をしないフリーマネーは、たいしたことをしないという北の部族の長老会の役割に変更を加えるものではない。さらに、この政策を導入することによって、貧富の差を火種とする争いや、餓死などの問題を減らすことができれば、結果的に豊かな者にも、現状よりも多くの利益がもたらされるかもしれない。以上により、北の部族には、この政策が受け入れられる余地がある。

これに対し、南の部族は、集団主義的な考え方を持つため、福祉としての観点から、ホームレスにフリーマネーを給付するという政策を、受け入れやすいようにも思われる。

しかし、南の部族の長老会には怠け者に関する苦情が絶えず寄せられており、このような「働きたくない者は、食べてはならない」という考え方が支配的な部族においては、フリーマネーは反発を招くであろう。そして、長老会が人々に仕事をあてがい、働きぶりを監視するという南の部族のシステムは、フリーマネーがその使途等の管理をしないことと整合しない。以上より、ホームレスにフリーマネーを給付するという政策は、南の部族にとっては受け入れられない可能性がある。(647字)